

校長だより

人はたった一枚の乗車券をもって「この世に生まれてきます。」誰もが平等にたった一枚手にする「切符」です。有効期限は書かれていないものの、その大事な大事な一枚の切符を握りしめて人生という旅行に出るのです。

生きるということは、うれしいことであり、楽しいことです。しかし時には、苦しいことや、悲しいことも経験します。たった一人で生まれてきた命ですが、家族に支えられて、その最初の時期を過ごします。自分では、食べることも服を着替えることもできない身ながら、家族の支えで、少しずつ自分で生きていく力を身に付けます。何もできなかった時期から考えると、自分で食べ、衣服も着替え、言葉も覚え、少しずつ成長していきます。

やがて、子ども園や小学校に通い始めます。友だちや先生など、家族以外の人との出会いです。家族以外の人との出会いは、もちろんすべてが順風満帆とは限りません。ときには友だちとのトラブルなども起こります。しかし、その経験は大きくなって独り立ちするためには絶対に必要な経験です。自分の思い通りにはならない他人という存在を知り、どうやってうまく付き合っていくかを学びます。大人になって、人付き合いを本格的にするようになるための練習の場です。自分で歩いて転んだらだめだと、常にベビーカーに乗せて移動させていたのでは、いつまでも歩くことが出来ないのと同じで、つまづきながらろびながら歩き方（人とのかかわり方）を覚えていきます。

中学生になると思春期を迎え、ますます成長は著しくなります。人間関係も同学年だけではなく、先輩後輩なども意識できるようになり、自分のことは自分でできることも多くなります。反抗期というものもありますが、大人になるためには必要な心の成長の一つです。すべてを肯定的にみていた小学生のころとは違い、物事に疑問を感じる事が出来ることで、自分の考えを持てるようになって

いきます。そして中学生の卒業の時期、進路という初めての節目を経験します。レールに乗っていれば生きていけたこれまでの生活が、ここで初めて「自分で選択して生きていく」という経験をします。またそのための努力を行います。昨日まで、小中と今や家族のように慣れ親しんだ友だちと離れ、もしかしたら、たった一人で新しい友だちの輪の中にとびこんでいかなければならないこともあります。一つの大きな大きな乗換駅に差し掛かったということです。

自分で食べることが出来るようになってと書きましたが、それはもちろんお茶碗を持ってお箸を使って食べるという意味で、自分で稼いで食べ物を手に入れるという、本当の意味での自立にはまだあと少しの時間が必要です。しかし、その日はそう遠いことではありません。よく考えたら昔の日本人は15歳で元服（今でいう成人）を迎えていました。寿命が長くなったことや社会が複雑化したことからすると、成人が伸びたのもうなずけます。しかし、本当の意味での自立に向けて最終段階に入ったことは間違いありません。

誰もが手にしてきたたった一枚の切符。その切符の前半の前半。料理でいうところの下ごしらえの時期が終わるのがこの成人までの日々です。前半の前半。下ごしらえと書きましたが、実質はその後の人生に大きく作用する大事な大事な時期です。甘いものも、おいしいものも、苦いものも、時にはまずいものも、すべてが未来の自分の自立に向けた栄養だと考えて、大事に消化しましょう。たった一枚の切符をどう輝かせるのかはあなた次第です。ぜひ素晴らしい人生を過ごしてください。